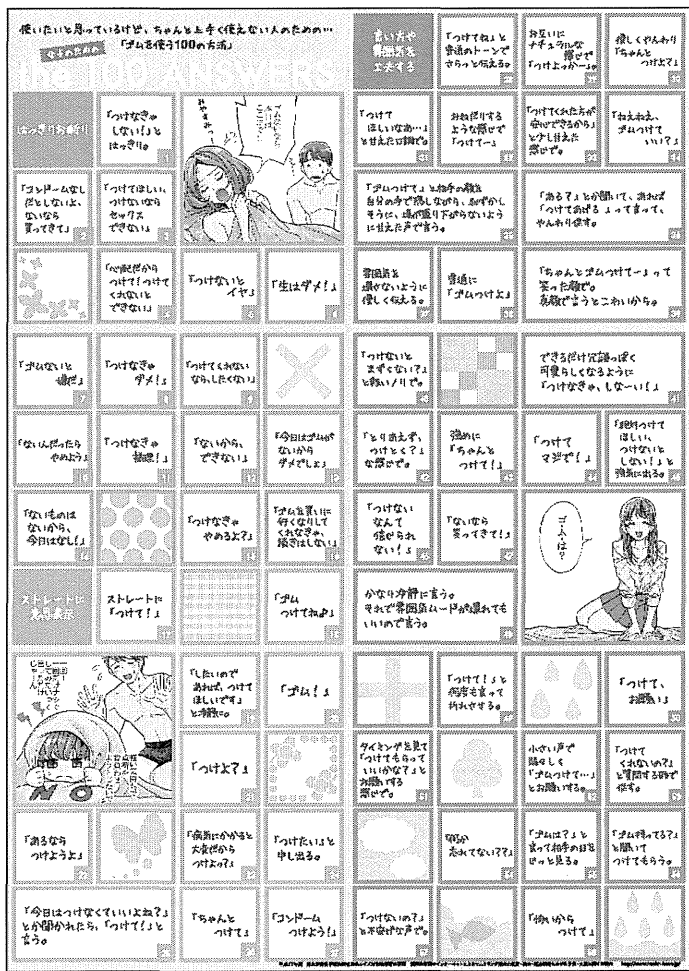


表紙



裏面内容

図 6. 「女子のための、ゴムをつける 100 の方法」

表7 保健師研修アンケート前後比較

	前-後 変化量の平均	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)	
①特に身構えることなく面談 を行える	.750	.707	3.000	7	.020	*
②MSM来所者との面談場で、 必要な時には性行動について の質問をスムーズにできると 思う	1.000	.756	3.742	7	.007	**
③MSM来所者との面談場で、 必要な時にはHIVについての相 手の考えを確認する質問をス ムーズにできると思う	1.250	.886	3.989	7	.005	**
④MSM来所者との面談に際し て、相手の緊張をほぐすよう な声かけができる	.500	.756	1.871	7	.104	
⑤MSM来所者にセイファーセッ クス支援を目的としたかわり をする時、正しい知識や情 報の提供を適切に行える	.375	.744	1.426	7	.197	
⑥セイファーセックス支援を 目的としたかわりをする 時、相手が自分の行動に気づ くことができるようなかかわ り方を知っている	2.000	1.069	5.292	7	.001	**
⑦セイファーセックス支援を 目的としたかわりをする 時、セックスの時にコンド ーム使用の提案をしやすくす るような働きかけ方を知って いる	1.500	.926	4.583	7	.003	**
⑧MSM来所者とは、話しにくい	-.500	.535	-2.646	7	.033	*
⑨MSM来所者の多くは、保健師 との面談に対して抵抗感があ るだろう	-.750	1.035	-2.049	7	.080	
⑩MSMの性行動については、な かなか理解しにくいと感じる	-.875	.641	-3.862	7	.006	**
⑪MSMの心理（気持ちや考え 方）には共感しにくい	-.625	.744	-2.376	7	.049	*

** p<.01 * p<.05

表 8 2015 年度保健師研修受講生の 3 ヶ月後実施状況アンケート結果

研修後、実践してみたこと

- ・研修会后、HIV 検査に従事する機会がなかったので、実践出来ていない。
- ・検査時の問診で MSM と答えた 3 名の来所者に実施した。3 名共に過去に検査の経験がある方だったので緊張感も少なく、プログラム開始時は興味深そうに聞いてくれた。
- ・MSM と検査前面接でわかっている受検者に、陰性結果を伝えたあとに実施した。
- ・研修後、検査前後相談で、本人より MSM と言われた方がいなかったため、このツールを使用しての実践はしていない。来所者に対し、なるべく自分自身で気づけるような声かけは心がけている。

実践してみた結果（来所者の反応、自分の気づき、うまくいったことや難しかったことなど）

- ・3 名中 2 名からは話が聞けて良かったが、少し時間がかかるのもって帰れるキットのようなものや、REACH(インターネット調査)の資料が欲しいと意見があった。
- ・1 名(定期的な受検者)からは、「MSM のみを対象にこのようなアプローチを行うことは、理解は出来るが傷つく人もいると思うので、HIV 検査で何度か来所しており保健師とも顔見知りで関係が築けている場合なら実施してもよいのでは」との助言があった。
- ・2 例は、時間がないのでと短縮版で実践した。来所者の反応は、1 例目は共感されており、最後の「100 の方法」まで至った。2 例目は共感するとともに、もっと自身でもっている知識を保健師に投げかけてくる反応がみられた。陽性者のパートナーがいるなかで、予防行動がとれていないときもあると話をされていたケースだった。感染した場合に、何が心配か（イコール大事にしたい部分は何か）を問う話をしたが、「わかっているんですけどね」とすぐに知識の話に切り替えられてしまい、展開が難しかった。また、「どのタイプかは忘れたが、すでにどこかでした」と言われることもあった。この方には、全ての流れを実践しなかったが、今はどの傾向がありそうですかと問いながら、セルフトークの振り返りを行った。
- ・風俗店利用を繰り返しているケースで、「もうお店に行かないほうが良いですね」などの行動変容につながる発言が見られた。

実践してみて、この手法を学ぶ前に行っていた予防介入や面談と何か違いを感じたか

- ・予防行動について今后来所者がどうしたいと思っているかが具体的に抽出できた。ただ時間がかかるので工夫が必要かと思われる。
- ・共感型や指導型の相談対応ではなく、自分で考えてもらえる話の流れに自然になっているように感じている。少し、時間が要するために身構えられて断られることがあるので、勧め方に工夫が必要な点が、今後課題だと思っている。
- ・こちらから伝えるだけでなく、自分自身で気づいてもらうことで予防行動につながりやすいのではないかと思った。

その他、この手法に関する意見

- ・セルフトークを振り返り、セーファーセックスにつなげる手法は、受検者のセーファーセックスに対する動機づけになるだけではなく、ツールを利用することで面接者の技術水準を一定に保つことにもつながるものであると思った。今後、検査に従事する機会があれば実践してみたい。
- ・処方箋の用紙を更に簡単に早く出来るものがあればありがたい。
- ・今まで、陰性告知場面で何人もとコンドームをつけずに UAI を行う MSM の方に出会い、受検者のセックススタイルに合わせた予防行動について話をしてきたが、予防行動がとれずに不安を

抱えて繰り返し検査に来られる方もいて、行動変容を起こすような関わり方の難しさを感じていた。今回、このような予防介入方法に出会い、学ぶ機会を得たことに感謝している。研修時のロールプレイでは、自分の言葉として語りかけることができなかったが、自分の言葉で語りかけられるようにトレーニングし、機会があればこの手法を積極的に実践し、受検者の行動変容につながるような関わりをしていきたい。

- ・この手法は、対象者が主体的に振り返り考えることに重きをおかれているところがいいなと感じている。保健師の役割は、対象者が自らの健康課題を解決するプロセスへの援助をすることであり、まさにその流れであるなと思っている。

- ・この手法を使うには、ある程度の実践経験を積まなければならないと思った。この手法を完全に使える対象者があまりいない（MSM と言ってくれて、時間がある人）のだが、応用として部分的にでも他の受検者にも使える点では良いと思う。MSM 以外にも使えるようなツールがあれば、より経験を積めると思う。

- ・HIV 検査に MSM の方が受検された際には、時間の範囲内で実践してみようと思う。

表 9 2014 年度保健師研修受講生の 1 年後実施状況アンケート結果

昨年の研修後現在まで、実践してみたこと

- ・定期的に受検されている人に対しても、HIV やエイズについて現状などの説明を行ない、必要時アンケートやセルフトークなどやり取りを実施。

- ・MSM の受検者に対して、一連のプログラムを実施した。また、MSM 以外の受検者でも、コンドームが使えないと話す人に対して、どのような時に使えないかを振り返ってもらい、「100 の方法」を見ながら、実践できそうな言葉を選び、リーフレットを渡した。

- ・プログラムを MSM とわかった人に実施した。統計の結果は、時間的に話す余裕がなく全ては伝えられなかった。

- ・検査相談時の対象者（MSM に限らず）に「感染予防の対処について想定で検討する話し合い（媒体なし）」の機会を持てた時はある。近日中に保健所内（担当者）でシミュレーションの機会を持つ予定。

- ・MSM の方と面接を想定していただいたセットを用意しておくが、MSM の方と面接することなく、異性間の方でもコンドーム装着しているといわれ実践できていない。

- ・事前面接で MSM であることを把握した受検者に、事後面接時に実施（1 名のみ）。受検者自身は、特定のパートナーで必ずコンドームを使用するということがあったが、面接内容について説明をすると、聞いてみたいとのことだった。

実践してみた結果（来所者の反応、自分の気づき、うまくいったことや難しかったことなど）

- ・HIV の検査を受けても、いつも大丈夫だから大丈夫だろうという表情で結果を聞こうとする姿がある。しかし、HIV やエイズの現状をお伝えすることで、考え深い様子を示されるところあり、予防することの大切さに改めて感じてもらえたように感じるがあった。毎回うまくいくわけではなく、まったく表情を変えずにいたり、時間的な余裕のなさをみせたり、うっとうしい様子を示したりで受け入れられていないこともわかるなかで、どのようにやり取りをすすめるかが今後の私自身の課題である。

- ・来所者から、自分の性行動を振り返るきっかけづくりとなったという反応があった。保健師が一方的に予防のことを伝えるだけでなく、受検者に対して、予防行動を実施することの難しさを

共感する関わりができた。

- ・プログラム中の項目でこれが当てはまると言ってくれたのは、1人だけだった。内容に対して、「子どもじゃあないし、こんなことやってる」という意見もありました。
- ・話し合いだけでも、例を出すと、自分で「これからはコンドームをかばんに入れておくようにします」など対策を考えて表現できる人は多かった。実際に一週間後の結果返しの時に「今はかばんの中に入れてる」と聞いた事例もあった。
- ・同じ媒体を見て共有しながら、一般的なことから、自分のことへ話が広がり深められた。本人自身はセーファーとのことだったので、具体的な改善策を話あったわけではないが、本人の性行動の振り返りやセーファーの重要性を共有することで、今後もセーファーを継続する動機づけになったのではないかと思う。

実践してみて、この手法を学ぶ前に行っていた予防介入や面談と、何か違いを感じたか

- ・以前は伝えようという姿勢が強かったと思うが、今回学んだやり取りの方法や取り組み姿勢などを活用し、相手が少しでも行動変容につながる機会となるよう心がけている。
- ・保健師側としては、予防行動の必要性を一方的に伝えることが多かったが、予防行動の難しさと一緒に考えて、気持ちに寄り添う関わりができるようになったと感じている。
- ・こちらから何か指導をしなくてはいけないと気負いせずに、話を聴いていく中で予防行動にまで話が進むように感じた。
- ・話し合う機会をうかがってみる事が大事と感じた。特に何も相談が無いと言われたり急いでいる様子の対象者には最低限の状況確認と情報提供になってしまう事が多かった。「予防ってわかっていても難しいですよ。皆さんもそう思っているようですね。でも、自分を特性を振り返ってあらかじめ対策を考えて準備をしておく…」と投げかけてみると少しの時間なら、案外やり取りできることが分かった。
- ・本人からの相談がなければ、一方的な情報提供に終わってしまうことが多かったが、相談の有無ではなくて、本人の認知・感情に焦点をあてて面接を進めるように心がけるようになった。

その他、この手法に関する意見

- ・元になっている MSM の人のアンケート調査の最新情報があれば、ぜひ教えてほしい。また、今後活用を続けていこうと思うが、相談したい時の窓口があれば、より学びを深めていけると思うので、ぜひ MSM の対応のための相談にのっていただけるようお願いしたい。
- ・当保健所は、リピーターの受検者がいて、前回の研修の際にリピーターに対するプログラムの応用方法の助言がありましたが、実際どのように使うのがいいのか、実践には至っていない状況である。リピーターに対する介入方法を詳しく教えていただけるとありがたい。
- ・対象者の中に答えがあると思えば面接に取り組むことができるので、この手法を知っておくと他の面接場面においても聴く姿勢でいられるように思う。
- ・検査相談来所の全例に一度（あるいは結果返却時にもう一度）予防対策について話し合いの機会を持つ仕組みを作ると良いと思う。全員に働き掛ける仕組みにする事で、性的指向について隠している人にも働きかけることができるし、対応経験数が増えるので保健師のスキルアップにもつながると考える。
- ・MSMに限らず、この手法を知っていれば、相手からの相談を待つだけでなく、こちらからアプローチができる。また、面接の終わりもある程度想定できるので、保健師も落ち着いて面接が行えると思う。

表10 グループ版アンケート実施前後比較

	前-後の変化量			t 値	自由度	有意確率 (両側)
	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差			
自己効力感 前—後 尺度得点	-9.167	5.115	2.088	-4.389	5	.007
認知尺度得 前—後 点	-3.667	3.777	1.542	-2.378	5	.063

** p<.01

表 11 グループ版認知行動面接 参加者の感想 (自由記述)

- ・今まで HIV の知識だけしかなかったので、こういったことは本当に良かった。
- ・自分がいざという時にどの様に考えるのか、発言するのかということを知ることができた。何か起こる前の、身を守る知識として役立つと思った。
- ・とてもためになるプログラムだった。
- ・ロールプレイは非常に苦手なのでこと細かに設定を決めているうちとても辛くなった。
- ・実際のセックスでもひと呼吸おいてセルフトークを試してみる。そして相手と合意を形成するリアルトークにつなげていく。紙に書き出したり、ロールプレイすることで頭の中だけでなく実際に身についたと思う。
- ・自分と相手の気持ちでセーファーに望むことが大事だと思った。

表 12 グループ版認知行動面接 スタッフの感想 (自由記述)

実践してみて戸惑った点や困難を感じた点

- ・前半部分では参加者は概ね協力的でスムーズに進めることができたが、後半ロールプレイについて説明中退席する方が 1 名いた。残った参加者でロールプレイを行うことはできたが、今後イベントを続けていく中で、ロールプレイを負担に感じる方がいるかもしれないと思った。
- ・もっと多くのゲイ・バイセクシュアル男性に、このイベントに参加してもらうことが今後の課題。広報の仕方 (HP の内容など) を工夫する必要があると思った。

実践して手ごたえを感じた点

- ・参加者の様子を見てみると、イベントに参加して満足している方が多い印象を受けた。HIV に関することを日常生活の中で知ったり考えたりすることは多くないため、このイベントで、初めて、または改めて、HIV について考える機会を提供できていること自体に、意味があるのではないかと思った。
- ・質問紙や DVD を使用することで、スタッフ側が一方向的に情報を提供するだけでなく、参加者にも能動的・積極的にイベントにコミットメントしてもらい機会が多くあり、インタラクティブなコミュニケーションが可能になっているように感じた。
- ・後半のロールプレイは体験型であるため、臨場感がある中で、前半で学んだセルフトークを、実際の場面で応用する練習ができたように思う。セーファーセックスを行うために必要なスキルを具体的にイメージする経験となり、今後の行動変容につながる期待がもてた。

このアプローチがゲイ・バイセクシュアル男性の HIV 予防に役立つと感じたか

- ・とてもそう思う。その理由は、参加者に情報を提供するだけでなく、実際にロールプレイを通して認知が変わっていくという体験をってもらうという点が非常に効果的であると感じた。グループプログラムということで、当事者同士でロールプレイを行うことができ、その後感想を共有することで様々な学びの内容をより具体的な実感として参加者に受け取ってもらうことができた。
- ・知識があっても実際の場面で雰囲気流されてしまうという経験をしている当事者はやはり多いようで、そういった参加者にとって“セルフトーク”といった言葉や認知行動的アプローチは非常に新鮮で意味あるものであったと感じている。

学校教育における性的指向・性同一性に配慮した HIV 予防教育に関する研究

研究代表者：日高 庸晴（宝塚大学看護学部 教授）

研究協力者：河合 隆次（奈良県高等学校人権研究会 事務局長）

研究要旨

平成 26 年厚生労働省エイズ発生動向年報によれば、男性の性的接触による HIV 感染者のうち同性間
が 76%であり、男女含めたすべての感染経路を含む HIV 感染者の過半数を占めている。一方で、これ
までのわが国の学校における HIV 予防教育において MSM は重視されてきておらず、そればかりか学
校や社会の中では多様なセクシュアリティおよびセクシュアル・マイノリティの存在が否定的にとらえ
られ、あるいは認識されていない現状がある。そこで本研究では、従来の性感染症予防教育で重視され
てきた「自己と他者の尊重」をセクシュアル・マイノリティまで広げ、これを学校教育において取り扱
うことにより HIV 感染拡大を防ぐという仮説に基づき、平成 26 年度に開発した授業案および授業資料
をもとに授業実践を行い、授業前後のアンケート回答をもとに教育効果を評価・検討した。

A. 研究目的

厚生労働省エイズ動向委員会による平成 26 年
エイズ発生動向年報によれば、男性の性的接触に
よる HIV 感染者のうち同性間が 76%であり、男
女含めたすべての感染経路を含む HIV 感染者の
過半数を占めている。わが国サーベイランス開始
以来 HIV 流行の中心は MSM であり、MSM に特
化した HIV 予防推進の重要性を示しているとい
えよう。

しかし、日本における児童・生徒を含む青少年
を対象にした HIV 予防教育では主に異性間にお
ける性的接触、薬害、母子間における感染経路に
関する教育が中心に行われてきた。公益財団法人
日本学校保健会および文部科学省学校健康教育
課が作成した高校生用の補助教材「健康な生活
を送るために」平成 27 年度版¹⁾では、HIV 感染
が高止まり傾向にあり 20 代～30 代において感染
報告が多いことに加え、感染経路については性的
接触を中心として副次的に母子間、注射器の感染
が主な経路であることが記載されているのみで
あり、増加傾向に性差があることや同性間の性的
接触に関する記述はなされていない。一方で、
2010 年の「子どもの権利条約第 3 回日本の政府
報告書審査における子どもの権利委員会の総括
所見」²⁾では、HIV/AIDS およびその他の性感染
症に関する教育が限定的であることへの懸念を
表明しており、日本を含む子どもの権利条約締約

国において学校カリキュラムに HIV 等の性感染
症予防を含むリプロダクティブ・ヘルス教育を含
めることや、HIV 等の性感染症の予防プログラム
へ青少年が容易にアクセスできるよう確保する
ことを勧告している。また、平成 20 年 1 月 17 日
の文部科学省における中央教育審議会答申³⁾では、
「子供たちが性に関して適切に理解し、行動する
ことができるようにすることが課題」として、そ
の課題の中に「若年層のエイズ及び性感染症や人
工妊娠中絶」を挙げ、これらに対し「学校全体で
共通理解を図りつつ」、保健体育科や特別活動等
において、「発達の段階を踏まえ、心身の発育・
発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識
を確実に身につけること、生命の尊重や自己及び
他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、
望ましい人間関係を構築することなどを重視し、
相互に関連付けて指導することが重要」だと述べ
られている。

しかし、実際には学校や社会の中では男性同性
間における HIV 感染拡大のことが正しく報じら
れていない現状や、多様なセクシュアリティおよ
びセクシュアル・マイノリティの存在が否定的に
捉えられている現状がある。セクシュアル・マイ
ノリティの存在に対して非尊重の風土や態度の
中で、当事者である子どもたちは、日々差別や偏
見に直面しているだけでなく、自分を肯定的に受
け止めるための情報やリスク回避に必要な知識

やスキルを得ることが出来ないでいる。セクシュアル・マイノリティである子どもたちのいじめ被害、不登校、自殺年慮・未遂などの経験率は高く、筆者が2014年に実施したインターネット調査⁴⁾によれば、これまでの学校生活で不登校になったことがあるかという問いに対して、全年代で17.6%、現在学生である可能性の高い10代の回答者においては22.7%もの回答者が「ある」と答えた。なお、文部科学省の学校基本調査⁵⁾によれば、26年度長期欠席者のうち「不登校」を理由とする中学校生徒数は全校生徒に占める割合で2.8%であった。また、孤独感や疎外感、自己否定、自尊感情の低下、性的指向を知られてしまうことがないようにそれを隠して生活する心理的葛藤やストレスなどが、抑うつ傾向や自傷行為、HIVをはじめとする性行為感染症などにつながっていることも指摘されている。つまり、子どもたちの健康や命を守るためには、セクシュアル・マイノリティをとりまく状況が人権課題であることを認識し、教育課題としてとりこんでいくことが急務となっているのである。

さらに、多様なセクシュアリティの肯定がMSM当事者、あるいは予備群と思われる児童・生徒に届き、自尊感情が育つよう働きかけることはもちろんであるが、さらにMSM非当事者である児童・生徒が、他者尊重を学び育む機会となる必要性も大きいと考えられる。なぜならば、世の中の多数派によるセクシュアル・マイノリティに対する無理解や偏見などが横行しているのは、学校教育でこのテーマが取り組まれていなかったがゆえに、他者尊重の学びの機会が欠如しており、そのためにセクシュアル・マイノリティをターゲットとしていじめや嫌がらせなどの加害行為を行ってきたと考えられるからである。セクシュアル・マイノリティではない者が性の多様性についての教育を受ける機会を与えられることこそが、学校風土がセクシュアル・マイノリティに対して肯定的になるための原動力となると考えられ、それぞれがセクシュアル・マイノリティに対する肯定的な学校風土をつくる一員となることが肝要である。

また、児童生徒の発達段階である思春期・青年期においては、自分自身のあり方（アイデンティティ）がまだ確立されにくい時期であるとされ、これは自らの性や性的指向についても同様である。アイデンティティの探求段階にある思春期・

青年期においては、自らのセクシュアリティについて考えるだけの情報や場が提供されることが必要であり、その中で自分のセクシュアリティが尊重されること、他者のセクシュアリティを尊重することを学んでいくことが、ひいてはHIV感染予防行動の実践に寄与すると考えられる。

本研究では、多様な性について学び、性別・性自認・性別表現・性的指向にかかわらず、自分らしく生きることが尊重される社会を考えるための機会を提供するための授業案の作成およびその教育効果を評価することを目的とする。生徒が到達すべき目標としては「性の多様性の尊重」であり、それに基づく自己尊重と他者尊重ということになる。

B. 研究方法

1. 授業対象者

A県の公立中学校および県立高校の2校を対象に、2016年1月に実施した。中学校は2年生6クラスと3年生6クラス、高校はビジネス系4クラス、工学系4クラスを実施対象とした。

2. 授業計画概要

奈良県高等学校人権教育研究会と共に研究1年目からの検討を経て、今年度まとめた授業案および授業資料をもとに授業実践を行った。授業のねらいは「性の多様性について知り、肯定的にとらえる」ことと、「自分や他者も「多様な性」を生きる一員であること、社会の一員であることに気づく」ことである。留意点は「当事者がクラスにいるという前提で授業をする」こと、「話やすい雰囲気づくり」を行うこと、「問題のある発言については、学習機会と捉えて、対応・展開する」ことの3点とした。

授業は「導入」、「展開1」、「展開2」、「まとめ」に分かれており、「展開2」でグループワークを行うため、授業開始の最初から1グループ4～6名に分かれて授業を行った。「導入」では、レインボーフラッグを提示し、今回の授業内容が多様な性に関することであると簡潔に紹介した。「展開1」、「展開2」、「まとめ」の学習指導案については、まとめたものを表1および表2に示した。

3. 手続き

まず、授業前日の朝に授業前アンケートを配布し、授業を行うクラスの生徒に回答を求めた。ア

アンケートの回答は任意であり、日常生活や成績に影響することはないこと、回答したアンケート内容は授業を担当した先生は見ず、専門家のみが閲覧することを担任教師から説明した。アンケート用紙の回収にあたっては、出席番号順ではなく順不同のまま回収し、担任教師がその場であらかじめ用意したのり付き封筒に封入した。

翌日の授業時間を使い、各クラスの担任教師が資料をもとに授業を行った。学習活動などの詳細は表1および表2のとおりである。授業終了直後、授業後アンケートを配布し、授業に参加した生徒に回答を求めた。授業前アンケートと同様の説明の後、同じく出席番号順ではなく順不同のまま回収し、担任教師がその場であらかじめ用意したのり付き封筒に封入した。

4. 設問項目

授業前後のアンケートでは、性の多様性に関する知識、態度、考えについて回答を求めた。また、授業前アンケートには今までのセクシュアル・マイノリティに関する学習機会の有無に関する設問（「これまでにセクシュアル・マイノリティについて学校で習ったことがある」「これまでにセクシュアル・マイノリティについて自己学習したことがある」）を2問、授業後アンケートには自由記述項目（授業全体を通して、気付いたことや感想）を1問付け加えた。

（倫理面への配慮）

本研究は、宝塚大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て実施した。加えて、授業前後のアンケートでは担任教師からアンケートが任意回答であることや無回答による不利益は生じないこと、プライバシーの保護について生徒へ説明した。また、授業前後のアンケートの連結は、個人情報の保護の観点から氏名ではなく出席番号によって行った。

C. 研究結果

1. 基礎集計

中学生12クラス、高校生8クラスを対象に、授業前後にアンケートの回答を求めた。回収データは授業前527名（中学校347名、高校280名）で、授業後526名（中学校347名、高校279名）であった。出席番号でひも付けを行った結果、出席番号の記入漏れなどでひも付けできなかった

データが授業前のみ、授業後のみ合わせてのべ75名（中学校68名、高校7名）あり、加えて分析に影響が懸念される欠損のあるデータ27名（中学校22名、高校5名）を集計対象から除外した。集計対象となったのは、回答に欠損のみられない561名（中学校290名、高校271名）である。

2. TVの影響による除外

高校8クラス中1クラスに本介入における授業の様子を記録・取材するテレビカメラや記者が入ったクラスがあり、取材などによる影響を検討するため、該当クラスとそれ以外の7クラスでクロス集計および検定を行った。ほとんどの設問で期待値が5未満の組み合わせが20%以上となったため、すべての項目においてPearsonの χ^2 検定にかわり、Fisherの正確確率検定を行った。結果を表3および表4に示す。

事前アンケートでは「Q5. 同性婚（同性同士の結婚）ができてもいい」（ $p<.01$ ）、「Q12. 友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる」（ $p<.05$ ）、「Q13. 友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる」（ $p<.05$ ）、「Q15. これまでにセクシュアル・マイノリティについて学校で習ったことがある」（ $p<.001$ ）、「Q16. これまでにセクシュアル・マイノリティについて自己学習したことがある」（ $p<.001$ ）において有意差がみられ、事後アンケートでは「Q4. 異性を好きになることが当然だ」（ $p<.05$ ）、「Q5. 同性婚（同性同士の結婚）ができてもいい」（ $p<.05$ ）、「Q9. 正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない」（ $p<.01$ ）、「Q10. 正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない」（ $p<.05$ ）において有意差がみられた。

テレビ取材などのあったクラスの方が望ましい回答の回答率が高かったり、「わからない」や「質問の意味がわからない」などの回答率が低かったりする傾向にあるため、取材などによって回答にゆがみが生じていると考え、これ以降の分析では取材のあったクラスを除外することとした。そのため、高校の分析対象者は全233名となった。

3. 学校別クロス集計

発達段階などの影響を検討するため、中学生と高校生に分けて授業前後のアンケート回答についてクロス集計およびPearsonの χ^2 検定を行っ

た。クロス集計表および検定結果を表 5 および表 6 に示す。

授業前のアンケート

「Q8 . 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」では Pearson の χ^2 検定で $p<.05$ の有意差がみられ、「質問の意味がわからない」において中学生が高校生より多い (13.8% > 6.4%, 調整済み残差 ± 2.7) 他、「そう思わない」において高校生が中学生よりやや多い傾向にある (42.9% > 34.8%, 調整済み残差 ± 1.9)。

「Q11 . 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」では Pearson の χ^2 検定で $p<.05$ の有意差がみられ、「質問の意味がわからない」において中学生が高校生より多い (15.2% > 7.3%, 調整済み残差 ± 2.8) 他、「そう思わない」において高校生が中学生より多い (34.3% > 24.5%, 調整済み残差 ± 2.5)。

「Q15 . これまでにセクシュアル・マイノリティについて学校で習ったことがある」では Pearson の χ^2 検定で $p<.01$ の有意差がみられ、「ある」において高校生が中学生より多い (12.0% > 4.1%, 調整済み残差 ± 3.4) 他、「質問の意味がわからない」において中学生が高校生よりやや多い傾向にある (37.6% > 30.5%, 調整済み残差 ± 1.7)。

授業後のアンケート

「Q4 . 異性を好きになることが当然だ」では Pearson の χ^2 検定で $p<.05$ の有意差がみられ、「そう思わない」において高校生が中学生より多い (37.8% > 28.6%, 調整済み残差 ± 2.2)。また、「質問の意味がわからない」において中学生が高校生より多く (3.1% > 0.4%, 調整済み残差 ± 2.2) 「わからない」においては中学生が高校生よりやや多い傾向にある (14.8% > 9.9%, 調整済み残差 ± 1.7)。

「Q6 . 性別を変えたいと思うことはおかしい」では、Pearson の χ^2 検定で $p<.01$ の有意差がみられ、「わからない」および「質問の意味がわからない」で中学生が高校生より多い (19.7% > 10.7%, 調整済み残差 $\pm 2.8/2.8$ > 0.4%, 調整済み残差 ± 2.0)。一方で、「そう思わない」では高校生が中学生より多い (54.5% > 45.9%, 調整済み残差 ± 2.0)。

「Q7 . 自分の友達が同性愛者だとわかったら、

抵抗を感じる」では Pearson の χ^2 検定で $p<.05$ の有意差がみられ、「質問の意味がわからない」において中学生が高校生より多い (4.8% > 0.9%, 調整済み残差 ± 2.6) 他、「どちらかといえばそう思わない」で高校生が中学生よりやや多い傾向がある (21.9% > 15.9%, 調整済み残差 ± 1.8)。

「Q14 . 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」では、では Pearson の χ^2 検定で $p<.05$ の有意差がみられ、「質問の意味がわからない」で中学生が高校生より多い (3.4% > 0.0%, 調整済み残差 ± 2.9) 他、「そう思わない」では高校生が中学生より多い (15.9% > 9.3%, 調整済み残差 ± 2.3)。

4. 学校別の授業前後の各設問の回答状況の推移

授業前のアンケートから授業後のアンケートへどのように回答が推移したか検討するため、授業前後の回答でクロス集計を行った。中学生の結果を表 7 から表 20 まで、高校生の結果を表 21 から表 34 までに示す。さらに、回答をそのまま検討すると期待値の低い組み合わせが数多くみられるため、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を「そう思う」、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を「そう思わない」として回答をまとめ、「わからない」および「質問の意味がわからない」を検討対象から除外した、 2×2 のクロス表を算出し、McNemar 検定を行った。中学生の結果を表 35 から表 48 まで、高校生の結果を表 49 から表 62 までに示す。また、回答の推移に関する理解を平易にするため、 2×2 のクロス表をもとに各回答の回答状況を示すグラフを作成した。中学生を図 1 から図 14 まで、高校生を図 15 から図 28 に示す。

中学生の授業前後の比較

「Q1 . 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」では $p<.001$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 161 名のうち 38.5% (62 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q2 . 男装は気持ち悪い」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思う」と回答していた 50 名のうち 34.0% (17 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q3 . 女装は気持ち悪い」では $p<.01$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答して

いた 83 名のうち 26.5% (22 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q4 . 異性を好きになることが当然だ」では $p<.001$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 160 名のうち 33.1% (53 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q5 . 同性婚 (同性同士の結婚) ができてもいい」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思わない」と回答していた 36 名のうち 27.8% (10 名) が授業後には「そう思う」と回答した。

「Q6 . 性別を変えたいと思うことはおかしい」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思う」と回答していた 40 名のうち 35.0% (14 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q7 . 自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思う」と回答していた 63 名のうち 22.2% (14 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q8 . 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」では $p<.05$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 39 名のうち 28.2% (11 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q9 . 正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない」では $p<.01$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 91 名のうち 31.9% (29 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q10 . 正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない」では $p<.001$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 84 名のうち 33.3% (28 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q11 . 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思う」と回答していた 51 名のうち 31.4% (16 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q12 . 友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思わない」と回答していた 37 名のうち 56.8% (21 名) が授業後には「そう思う」と回答した。

「Q13 . 友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思わない」と回答していた 25 名のうち 60.0% (15 名) が授業後には「そう思う」と回答した。

「Q14 . 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」では $p<.001$ で有意差がみられた。授業前には「そう思わない」と回答していた 65 名のうち 52.3% (34 名) が授業後には「そう思う」と回答した。

高校生の授業前後の比較

「Q1 . 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」では $p<.001$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 133 名のうち 46.6% (62 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q2 . 男装は気持ち悪い」では $p<.05$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 41 名のうち 36.6% (15 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q3 . 女装は気持ち悪い」では $p<.01$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 68 名のうち 32.4% (22 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q4 . 異性を好きになることが当然だ」では $p<.001$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 137 名のうち 40.1% (55 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q5 . 同性婚 (同性同士の結婚) ができてもいい」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思わない」と回答していた 42 名のうち 42.9% (18 名) が授業後には「そう思う」と回答した。

「Q6 . 性別を変えたいと思うことはおかしい」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思う」と回答していた 22 名のうち 50.0% (11 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q7 . 自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思う」と回答していた 58 名のうち 29.3% (17 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q8 . 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」では $p<.01$ で有意差がみられ

た。授業前には「そう思う」と回答していた 25 名のうち 4.0% (1 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q9 . 正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない」では $p<.001$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 73 名のうち 35.6% (26 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q10 . 正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない」では $p<.05$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 54 名のうち 35.2% (19 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q11 . 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」では $p<.05$ で有意差がみられた。授業前には「そう思う」と回答していた 44 名のうち 40.9% (18 名) が授業後には「そう思わない」と回答した。

「Q12 . 友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思わない」と回答していた 35 名のうち 37.1% (13 名) が授業後には「そう思う」と回答した。

「Q13 . 友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる」では授業前後で有意な回答数の変化はみられなかった。授業前には「そう思わない」と回答していた 26 名のうち 42.3% (11 名) が授業後には「そう思う」と回答した。

「Q14 . 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」では $p<.001$ で有意差がみられた。授業前には「そう思わない」と回答していた 82 名のうち 46.3% (38 名) が授業後には「そう思う」と回答した。

5. 学校別の男女別比較

今回の授業前後のアンケート回答の性差を検討するため、中学校と高校でそれぞれ男女別にクロス集計を行った。アンケートデータと性別のひも付けは出席番号によって行っており、ここでいう性別は身体的な性を指す。クロス集計の結果を表 63 および表 64 に示した。また、回答をそのまま検討すると期待値の低い組み合わせが数多くみられるため、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を「そう思う」、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を「そう思わ

ない」として回答をまとめ、「わからない」および「質問の意味がわからない」を検討対象から除外した 2×2 のクロス表を算出し、Pearson の χ^2 検定を行った結果を表 65 および表 66 に示す。

中学校授業前アンケート

$p<.001$ で有意差がみられたのは、「Q1 . 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」、「Q4 . 異性を好きになることが当然だ」、「Q6 . 性別を変えたいと思うことはおかしい」、「Q9 . 正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない」、「Q10 . 正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない」の 5 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

$p<.01$ で有意差がみられたのは、「Q2 . 男装は気持ち悪い」、「Q3 . 女装は気持ち悪い」の 2 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

$p<.05$ で有意差がみられたのは、「Q11 . 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」の 1 問のみであり、男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

男女間で有意な回答率の違いはみられなかったのは、「Q5 . 同性婚 (同性同士の結婚) ができていい」、「Q7 . 自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q8 . 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q12 . 友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる」、「Q13 . 友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる」、「Q14 . 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」の 6 問であった。

中学校授業後アンケート

$p<.001$ で有意差がみられたのは、「Q4 . 異性を好きになることが当然だ」、「Q6 . 性別を変えたいと思うことはおかしい」、「Q9 . 正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない」、「Q10 . 正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない」の 4 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

$p<.01$ で有意差がみられたのは、「Q1 . 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」、「Q2 . 男装は気持ち悪い」、「Q7 . 自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q11 . 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」の 4

間であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

$p<.05$ で有意差がみられたのは、「Q3 . 女装は気持ち悪い」、「Q8 . 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q12 . 友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる」、「Q13 . 友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる」、「Q14 . 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」の 5 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

男女間で有意な回答率の違いはみられなかったのは、「Q5 . 同性婚（同性同士の結婚）ができてもいい」の 1 問のみであった。

高校授業前アンケート

$p<.001$ で有意差がみられたのは、「Q9 . 正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない」、「Q10 . 正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない」、「Q11 . 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」の 3 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

$p<.01$ で有意差がみられたのは、「Q1 . 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」、「Q5 . 同性婚（同性同士の結婚）ができてもいい」、「Q6 . 性別を変えたいと思うことはおかしい」、「Q7 . 自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q8 . 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」の 5 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

$p<.05$ で有意差がみられたのは、「Q4 . 異性を好きになることが当然だ」、「Q12 . 友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる」の 2 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

男女間で有意な回答率の違いはみられなかったのは、「Q2 . 男装は気持ち悪い」、「Q3 . 女装は気持ち悪い」、「Q13 . 友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる」、「Q14 . 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」の 4 問であった。

高校授業後アンケート

$p<.001$ で有意差がみられたのは、「Q1 . 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」、「Q9 . 正直な気

持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない」、「Q10 . 正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない」、「Q14 . 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」の 4 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

$p<.01$ で有意差がみられたのは、「Q4 . 異性を好きになることが当然だ」、「Q6 . 性別を変えたいと思うことはおかしい」の 2 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

$p<.05$ で有意差がみられたのは、「Q11 . 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」、「Q13 . 友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる」の 2 問であり、すべて男性よりも女性の方が有意に望ましい回答が多かった。

男女間で有意な回答率の違いはみられなかったのは、「Q2 . 男装は気持ち悪い」、「Q3 . 女装は気持ち悪い」、「Q5 . 同性婚（同性同士の結婚）ができてもいい」、「Q7 . 自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q8 . 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q12 . 友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる」の 6 問であった。

D. 考察

1. 学校別クロス集計

授業前後通して、全体的に「質問の意味がわからない」の回答が中学生で回答率が高い傾向にあった。特に、授業前で有意差のあった「Q8 . 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」や「Q11 . 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」では「性同一性障害」、「Q15 . これまでにセクシュアル・マイノリティについて学校で習ったことがある」では「セクシュアル・マイノリティ」と、それまでの学校教育で触れられる機会がないと考えられる単語を使用しており、単語の意味がわからず回答が難しかった可能性がある。その他の授業前の傾向として、高校生は中学生よりも性同一性障害への抵抗が少なく、比較的理解を示す傾向にあり、セクシュアル・マイノリティに関して 1 割程度が学校で学習したことがあると回答している。

授業後で有意差のあった設問は、授業前には有意差のなかった設問であり、学習効果の違いが相

対的に判断できると考えられる。高校生の方が望ましい回答の回答率が有意に高く学習効果の高かったと思われる設問は「Q4. 異性を好きになることが当然だ」、「Q6. 性別を変えたいと思うことはおかしい」、「Q7. 自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる」である。特に Q4、Q6 については「わからない」と回答した者が中学生で有意に多く、望ましくない回答の回答率よりもむしろ判断の迷いから高校生よりも学習効果が低いと考えられる。「Q4. 異性を好きになることが当然だ」および「Q6. 性別を変えたいと思うことはおかしい」は授業内容と深くかかわる設問であるが、性の多様性を学習した後では「異性」・「性別を変える」といった表現に混乱する生徒もいたのかもしれない。一方で、「Q14. 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」においては中学生の方が有意に望ましくない回答が少なく、高校生よりも学習効果が高かったと考えられる。Q14 は授業前にも「そう思わない」回答項目単体では有意差がみられている（高校生 21.9% > 中学生 14.5%, 調整済み残差±2.2）ため学習効果のみの効果であるとは考えにくい、コールバーグの道徳性発達理論の観点では高校生よりも中学生の方が前慣習的水準の生徒が多いと考えられるため、教師の提示する価値観に対して比較的従順であったとも考えられる。

2. 学校別の授業前後の各設問の回答状況の推移

中学生において授業後で有意に望ましい回答が多かった設問は、「Q1. 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」、「Q3. 女装は気持ち悪い」、「Q4. 異性を好きになることが当然だ」、「Q9. 正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない」、「Q10. 正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない」、「Q14. 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」の 6 項目である。Q1、Q4 の性の多様性に関する知識についての設問の他、セクシュアル・マイノリティへの理解や容認を示す Q3、Q9、Q10、Q14 において、有意な望ましい変化がみられた。特に Q3、Q14 においては、授業後で望ましい回答の回答数が望ましくない回答の倍以上となっている。

高校生において授業後で有意に望ましい回答が多かった設問は、「Q1. 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」、「Q2. 男装は気持ち悪い」、「Q3. 女装は気持ち悪い」、「Q4. 異性を好きになること

が当然だ」、「Q9. 正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない」、「Q10. 正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない」、「Q11. 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」、「Q14. 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」の 8 項目である。Q1、Q4 の性の多様性に関する知識についての設問の他、セクシュアル・マイノリティへの理解や容認を示す Q2、Q3、Q9、Q10、Q11、Q14 において、有意な望ましい変化がみられた。特に Q2、Q3、Q10、Q11、Q14 においては、授業後で望ましい回答の回答数が望ましくない回答の倍以上となっている。

また、「Q8. 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」については、中学生・高校生ともに有意差があるが、望ましくない回答の回答数が有意に増加したことが示されている。Q8 は授業前の望ましくない回答の人数が全体の 25% 以下であり、授業前から望ましくない回答の率が低いことがわかる。そのため授業後においても中学生では 35% 以下、高校生では 25% 以下と決して授業後の数値が悪くないにもかかわらずこのような結果になったと考えられる。特に、高校生においては望ましくない回答への変化が 11 名でありその他の設問とほぼ同等であることから、授業前から望ましい回答が 90% を超えていたことが要因であろう。一方で中学生では、望ましくない回答への変化が 26 名とその他の設問と比較してほぼ 2 倍である。Q8 は授業前において高校生と比較して「質問の意味がわからない」の回答が有意に多かった設問であり、授業前の中学生は性同一性障害に関する知識があまりなかったと考えられることを考慮すると、中学生において望ましくない回答が有意に増加したのは、授業を通して性同一性障害に関する知識を得たことで、性同一性障害をより身近に・より真剣に考えた結果ではないだろうか。発達段階上、中学生は心理的自立の黎明期であり、大人との関係性よりも同年代の友人との関係をより重要視し、友人グループ内の結束や連帯感が強い時期である。特に女性に多いとされるが、中学生のグループは共通性や同質性を強調することで連帯感を高めるチャムグループの特徴が強いため、「自分の友達が性同一性障害だとわかったら」という仮定は、回答者が性同一性障害ではない場合には「自分の友達が自分と違うとわかったら」ということと同義であ

り、同質性によって友人グループを形成する中学生にとって、異質性の発見はある程度の抵抗を感じて当然とも考えられる。

有意差のない項目については、中学生・高校生ともに授業前から望ましい回答の回答数が望ましくない回答の倍以上であり、授業前からある程度の理解を得られている項目であると考えられる。有意差のみられた項目中で授業前に同様の傾向がみられたのは、高校生で「Q2. 男装は気持ち悪い」、「Q11. 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」であり、これらの設問に関しては、元々の理解がさらに深まった結果であると考えられる。

3. 学校別の男女別比較

授業の前後や中・高生問わず、有意差の見られた項目はすべて男子生徒よりも女子生徒の方が望ましい回答が多い結果であった。有意差のなかった項目においても、唯一男子生徒の方が望ましい回答が多かったのは中学生の授業前における「Q14. 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」であり、男性 60.8% (62名) と女性 57.4% (62名) とほぼ同等の数値であったといえる範囲と考えられる。すなわち、性の多様性やセクシュアル・マイノリティに対する知識、理解、容認度は男性よりも女性の方が高いと考えられ、これは発達段階に関わらずみられる傾向であった。類似の結果を示す先行研究としては、和田 (1991) ⁶⁾ の異性愛者の同性愛者に対する態度を検討した質問紙調査では、男性よりも女性の方が同性愛者に対する「社会的容認度」が高く、「心理的距離感」を近く見積もり、「ポジティブイメージ」を抱いていることが示されている。また、宮澤・福富 (2008) ⁷⁾ は、回答者の性的指向を問わずゲイに対する態度とレズビアンに対する態度をそれぞれ調査しており、ゲイに対しては男性よりも女性の方が「心理的距離」を近く感じ、「社会的認知」(和田 (1991) の「社会的容認度」にあたる) が高く、「ポジティブイメージ」を抱いていることが示されている。また、レズビアンに対しては女性よりも男性の方が「心理的距離」を近く感じているが、「ネガティブイメージ」の抱きにくさや「社会的認知」の高さは男性よりも女性の方が有意に大きい結果を示している。これらの先行研究では異性愛者間での態度における性差を検討していないため、同性愛者に対する態度に限定さ

れる結果であると結論付けるのは早計であり、これは本研究においても同様である。すなわち、性の多様性やセクシュアル・マイノリティ以外の人権問題や対人関係に関しても女性の方がより容認傾向にあることは否定できない。しかし、本研究の最終的な目的である自他の尊重に重きを置くのであれば、性の多様性やセクシュアル・マイノリティのみに限らないさまざまな容認傾向は、自他の尊重のための基礎であると考えられることもできるであろう。

また、授業前後の有意水準を比較すると、授業前には有意差のなかった項目が、授業後では有意差がみられた項目や、授業前後で有意水準が上昇した項目が散見される。中学生では「Q7. 自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q8. 自分の友達が性同一性障害だとわかたら、抵抗を感じる」、「Q11. 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」、「Q12. 友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる」、「Q13. 友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる」、「Q14. 「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ」であり、高校生では中学生と同様の Q13、Q14 および「Q1. 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」、「Q4. 異性を好きになることが当然だ」である。これらの設問は授業前より授業後で性差が大きく、男性よりも女性の方がより望ましい回答が増加した傾向にあり、女性でより学習効果が高かったと考えられる。中学生ではセクシュアル・マイノリティに対する受容などの理解的態度に関する項目で女性の学習効果が高く、高校生では性同一性障害のカミングアウトに対する受容および性の多様性に関する知識で女性の学習効果が高かった。中学生においては前述の通り女性の方がチャムグループの特徴が強いと考えられているため、性の多様性に関する授業を受けることでセクシュアル・マイノリティが身近にいても同質性を損なうことはないと考えた結果、より受容的態度へと変化した可能性がある。高校生においては中学生よりも水準の上昇した項目が少なく、中学生と比較すると学習効果の性差は少ないと考えられる。

逆に、授業後に有意差がなくなった項目や有意水準が下降した項目としては、中学生では「Q1. 性別は「男」か「女」の 2 つしかない」、「Q3. 女装は気持ち悪い」の 2 問、高校生では「Q5. 同性婚(同性同士の結婚)ができてもいい」、「Q7. 自

分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q8. 自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる」、「Q11. 正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない」、「Q12. 友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる」の5問である。これらの設問は授業後で性差が小さくなっており、男性で女性より学習効果が高かったと考えられる他、授業の前から女性の望ましい回答が多いため有意差が広がり得なかったと考えられる項目である。特に高校生においては、Q8で90%以上、Q5、Q11、Q12で80%以上の女性が授業前から望ましい回答をしているため、授業後における変化の伸びしろが少なく、男性の学習効果が高かったというよりはむしろ有意差が広がりにくい状況であったと考えられる。

E. 結論

授業案をもとに中学校と高校で介入授業を実施した。一定の効果が得られており次年度には対象校と人数を拡大した上で、本格的に介入研究を実施する計画である。

F. 研究発表

1. 論文発表

(和文)

- 1) 日高庸晴：学校における性的マイノリティへの対応、精神科治療学、星和書店、第31(4・5)、印刷中、2016.
- 2) 西村由実子、岩井美詠子、尾崎晶代、和本明日香、日高庸晴：近畿圏の保健師におけるHIV検査相談の現状に関する研究、日本エイズ学会誌、18(1)、20-28、2016.
- 3) 日高庸晴：もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい 3 未来に向かって、汐文社、2016.
- 4) 日高庸晴ほか：学校・病院スタッフ必携 LGBT サポートブック、メディカ出版、印刷中、2016.
- 5) 日高庸晴：もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい 2 わたしの気持ち、みんなの気持ち、汐文社、2016.
- 6) 日高庸晴：もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい 1 セクシュアルマイノリティについて、汐文社、2015.
- 7) 日高庸晴、古谷野淳子：性的マイノリティの自殺予防、精神科治療学、星和書店、第30巻

3号、361-367、2015.

- 8) 日高庸晴・星野慎二ほか：LGBTQを知っていますか？“みんなと違う”は“ヘン”じゃない、日高庸晴監著、少年写真新聞社、13-34頁、2015.
- 9) 日高庸晴：思春期青年期に配慮が必要なセクシュアルマイノリティ、教育と医学、慶應義塾大学出版会、第63(10)、65-73頁、2015年
- 10) 日高庸晴：教育現場で配慮と支援が必要なセクシュアルマイノリティ、女も男も、労働教育センター、No.125、26-33頁、2015.
- 11) 日高庸晴・古谷野淳子：性的マイノリティの自殺予防、精神科治療学、30(3):361-367、2015.

2. 学会発表

(国内)

- 1) 古谷野淳子、松高由佳、桑野真澄、小松賢亮、長野香、西川歩美、日高庸晴。個別認知行動面接の実践からMSMのHIV予防を考える。日本エイズ学会、2015、東京。

G. 引用文献

- 1) 文部科学省学校健康教育課、公益財団法人日本学校保健会：健康な生活を送るために 平成27年度版、2015.
http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/08111805.htm
- 2) 外務省：子どもの権利条約第3回日本の政府報告書審査における子どもの権利委員会の総括所見、2010.
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jido/pdfs/1006_kj03_kenkai.pdf
- 3) 文部科学省：中央教育審議会答申、2008.
- 4) 日高庸晴：インターネットによるMSMのHIV感染リスクに関する行動疫学研究—REACH Online 2014—、厚生労働科学研究平成26年度報告書、2015.
- 5) 文部科学省：学校基本調査平成27年度（確定値）結果、2015.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2016/01/18/1365622_1_1.pdf
- 6) 和田 実：青年の同性愛に対する態度：性および性役割同一性による差異、社会心理学研究、12、9-19、1996.
- 7) 宮澤 仁・福富 護：同性愛者に対する態度とメディア・リテラシーとの関連、東京学芸大学紀要総合教育科学系、59、211-221、2008.

表1. 展開1(4つの要素から自分の性を考える)

学習課題	学習活動	指導上の留意点	情報・備考
性に関する要素、言葉について知る。	「自分の性別」について、4つの要素から考え、性の多様性に気づかせる。 1. 性の4つの要素を見せて言葉の説明を行う ・ここでは簡単に言葉の説明にとどめる。	・教室にマイノリティ当事者がいる可能性に配慮する。 ・4つの要素は「教える」ものではなく、あくまでも自分を振り返るための材料、きっかけとして用いる。	・配布資料を使用。スライド(プレゼンソフト)またはパネル(A3サイズ)等を併用して展開する。 ・図Aを使用
性のありようは多様でいろいろであることを知る	2. 4本線で「自分の性を考えてみよう」「こんな風に感じる人もいる」表の確認 ・どのあたりに印がつくか、心の中で考えさせる。 ・教員が自分の性について書いて見せてもよい。 ・典型例を示し、「本当にそうかな」と問いかけてみることもよい(同性愛者やトランスジェンダーの一例を提示)。	・男女の中の枠組みで説明するのではなく、自由な発想を尊重する。(線上でなくてもよい) ・印の位置について、実際に書かせたり発表させたりしない。 ・解釈はいろいろあるが、印の付け方は本人の思う(感じる)ところでよい。 →正解(まちがいは)ない。	・図B、図Cを使用
性的指向と性自認の違いを知る	3. LGBTQの言葉の説明	・L/G/B/T/Qそれぞれもまた多様な存在であることに留意 「ホモ、レズ、おかま」などの発言に対しては、受けとめておくにとどめる。	・図Dを使用
自分も多様な存在の一人であることに気づく	4. 各グループに1部、「いろいろな性別」を見本として配布 ・一人ひとりの違いがグラデーションであり、どのような違いであっても、その人の「ありのまま」を尊重できるような関係が大切なことに気づかせる。 5. 自分の性をもう一度考えてみよう ・問いかけ(掘り下げて考えてみることで自分の中に変化があるか)	・一人ひとりの違いはプライバシーであり、お互いに尊重されるべきものであることを確認する。(アウトティングの禁止) ・「いろいろな性別」は終了後回収する。 ・差別や偏見に対する気づきは、次の展開で考えることとする。	・図Eを使用 ・図Bを使用

表2. 展開2(手記を読むくグループワーク)

学習課題	学習活動	指導上の留意点	情報・備考
セクシュアルマイノリティ当事者の気持ちを考える	手記を配布し、見てもらいながら教員が読む。 1. 「好きのいろいろ」を知る ・同性を好きになる人の存在に気づかせる例) 「異性と同じように同性を好きになる人もいるね」 「好きという気持ちは同じだね」 2. 「怖かった」「世間から常に嘘を強要」について数名に発問し、筆者の思いを受けとめ、考えさせる。 ・何が怖いのか、自己否定につながる背景を考える。	・マイノリティ=いじめ、HIV感染という偏見の助長にならないよう配慮する。 ・「好き」になることに異性が同性かは関係ないことを確認する。 ・「誰が怖がらせているのか」に気づかせる。 ・「ホモ、レズ、おかま」などの発言や、笑いのネタにすることがマイノリティ当事者を傷つけ、自己否定につながることに気づかせる。 ・現在の「あたり前=異性愛者、男女2分的な意識」に気づく。	・30代ゲイの手記を使用
自分たちにできることは何か、考える	3. 「仲のよい友達から、この手記のようなコメントを受けたら、どう応え、接していきたいか」について、グループで話し合わせる。 ↓ ・各グループで、ワークシート記録用紙にまとめる。 ・みんなに一番伝えたいことは何か、各グループから簡潔に発表させる。 ・終了後にシートを教室内に掲示することもよい。	・個人ができること、社会のありようについてなど、さまざまな視点で意見が出るのが望ましい。 ・当事者の立場から考えてみることも可能。 ・手記から読み取れること(ここでは性的指向)以外のマイノリティ、人権課題についても共通点(いじめや差別などの問題点)、相違点(それぞれ悩みがちがうかもしれないね)があることにも気づきがあるとよりよい。	・グループワークの記録用紙を配布・使用
まとめ	・展開2の発問への気づきや、グループでの話し合い、発表内容の共有をまとめとする。 ・展開1でみたように、性のありようは多様であることをスライド等で整理し、「多様性が尊重される社会」に大切さを再認識させる。	・差別のない人間関係や社会は一人ひとりが築いていくものであることに気づかせる。 ・それぞれが多様な個性のある存在であることに気づき、偏見や差別意識と向き合うことの大切さを確認する。 ・もっと深く考えたいことや、困っていることがあれば個別に話しにきてほしいことを伝える。	・スライド20・21の「まとめ」を提示。

表3. 取材の有無クロス集計、 χ^2 検定(授業前)

	取材の有無(高校のみ)						p-value
	テレビ無 n=233		テレビ有 n=38		合計 n=271		
	n	%	n	%	n	%	
事前_Q1.性別は「男」か「女」の2つしかない							n. s.
そう思う	99	(42.5%)	12	(31.6%)	111	(41.0%)	
どちらかと言えばそう思う	44	(18.9%)	11	(28.9%)	55	(20.3%)	
どちらかといえばそう思わない	23	(9.9%)	7	(18.4%)	30	(11.1%)	
そう思わない	36	(15.5%)	4	(10.5%)	40	(14.8%)	
わからない	15	(6.4%)	3	(7.9%)	18	(6.6%)	
質問の意味がわからない	16	(6.9%)	1	(2.6%)	17	(6.3%)	
事前_Q2.男装は気持ち悪い							n. s.
そう思う	20	(8.6%)	0	(0.0%)	20	(7.4%)	
どちらかと言えばそう思う	25	(10.7%)	7	(18.4%)	32	(11.8%)	
どちらかといえばそう思わない	45	(19.3%)	8	(21.1%)	53	(19.6%)	
そう思わない	101	(43.3%)	18	(47.4%)	119	(43.9%)	
わからない	30	(12.9%)	3	(7.9%)	33	(12.2%)	
質問の意味がわからない	12	(5.2%)	2	(5.3%)	14	(5.2%)	
事前_Q3.女装は気持ち悪い							n. s.
そう思う	34	(14.6%)	2	(5.3%)	36	(13.3%)	
どちらかと言えばそう思う	40	(17.2%)	10	(26.3%)	50	(18.5%)	
どちらかといえばそう思わない	38	(16.3%)	8	(21.1%)	46	(17.0%)	
そう思わない	79	(33.9%)	11	(28.9%)	90	(33.2%)	
わからない	29	(12.4%)	5	(13.2%)	34	(12.5%)	
質問の意味がわからない	13	(5.6%)	2	(5.3%)	15	(5.5%)	
事前_Q4.異性を好きになることが当然だ							n. s.
そう思う	85	(36.5%)	9	(23.7%)	94	(34.7%)	
どちらかと言えばそう思う	61	(26.2%)	13	(34.2%)	74	(27.3%)	
どちらかといえばそう思わない	21	(9.0%)	7	(18.4%)	28	(10.3%)	
そう思わない	42	(18.0%)	7	(18.4%)	49	(18.1%)	
わからない	19	(8.2%)	2	(5.3%)	21	(7.7%)	
質問の意味がわからない	5	(2.1%)	0	(0.0%)	5	(1.8%)	
事前_Q5.同性婚(同性同士の結婚)ができてもいい							**
そう思う	82	(35.2%)	20	(52.6%)	102	(37.6%)	
どちらかと言えばそう思う	51	(21.9%)	15	(39.5%)	66	(24.4%)	
どちらかといえばそう思わない	16	(6.9%)	0	(0.0%)	16	(5.9%)	
そう思わない	30	(12.9%)	1	(2.6%)	31	(11.4%)	
わからない	48	(20.6%)	2	(5.3%)	50	(18.5%)	
質問の意味がわからない	6	(2.6%)	0	(0.0%)	6	(2.2%)	
事前_Q6.性別を変えたいと思うことはおかしい							n. s.
そう思う	14	(6.0%)	2	(5.3%)	16	(5.9%)	
どちらかと言えばそう思う	12	(5.2%)	3	(7.9%)	15	(5.5%)	
どちらかといえばそう思わない	42	(18.0%)	9	(23.7%)	51	(18.8%)	
そう思わない	116	(49.8%)	22	(57.9%)	138	(50.9%)	
わからない	41	(17.6%)	1	(2.6%)	42	(15.5%)	
質問の意味がわからない	8	(3.4%)	1	(2.6%)	9	(3.3%)	
事前_Q7.自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる							n. s.
そう思う	27	(11.6%)	4	(10.5%)	31	(11.4%)	
どちらかと言えばそう思う	39	(16.7%)	3	(7.9%)	42	(15.5%)	
どちらかといえばそう思わない	26	(11.2%)	9	(23.7%)	35	(12.9%)	
そう思わない	84	(36.1%)	15	(39.5%)	99	(36.5%)	
わからない	53	(22.7%)	6	(15.8%)	59	(21.8%)	
質問の意味がわからない	4	(1.7%)	1	(2.6%)	5	(1.8%)	
事前_Q8.自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる							n. s.
そう思う	13	(5.6%)	2	(5.3%)	15	(5.5%)	
どちらかと言えばそう思う	16	(6.9%)	5	(13.2%)	21	(7.7%)	
どちらかといえばそう思わない	27	(11.6%)	9	(23.7%)	36	(13.3%)	
そう思わない	100	(42.9%)	14	(36.8%)	114	(42.1%)	
わからない	62	(26.6%)	5	(13.2%)	67	(24.7%)	
質問の意味がわからない	15	(6.4%)	3	(7.9%)	18	(6.6%)	

表3. 取材の有無クロス集計、 χ^2 検定(授業前)

	取材の有無(高校のみ)						p-value
	テレビ無 n=233		テレビ有 n=38		合計 n=271		
	n	%	n	%	n	%	
事前_Q9.正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない							n. s.
そう思う	52	(22.3%)	3	(7.9%)	55	(20.3%)	
どちらかと言えばそう思う	41	(17.6%)	9	(23.7%)	50	(18.5%)	
どちらかといえばそう思わない	32	(13.7%)	7	(18.4%)	39	(14.4%)	
そう思わない	54	(23.2%)	11	(28.9%)	65	(24.0%)	
わからない	48	(20.6%)	7	(18.4%)	55	(20.3%)	
質問の意味がわからない	6	(2.6%)	1	(2.6%)	7	(2.6%)	
事前_Q10.正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない							n. s.
そう思う	40	(17.2%)	4	(10.5%)	44	(16.2%)	
どちらかと言えばそう思う	30	(12.9%)	6	(15.8%)	36	(13.3%)	
どちらかといえばそう思わない	39	(16.7%)	8	(21.1%)	47	(17.3%)	
そう思わない	67	(28.8%)	12	(31.6%)	79	(29.2%)	
わからない	51	(21.9%)	8	(21.1%)	59	(21.8%)	
質問の意味がわからない	6	(2.6%)	0	(0.0%)	6	(2.2%)	
事前_Q11.正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない							n. s.
そう思う	27	(11.6%)	2	(5.3%)	29	(10.7%)	
どちらかと言えばそう思う	23	(9.9%)	5	(13.2%)	28	(10.3%)	
どちらかといえばそう思わない	26	(11.2%)	6	(15.8%)	32	(11.8%)	
そう思わない	80	(34.3%)	15	(39.5%)	95	(35.1%)	
わからない	60	(25.8%)	9	(23.7%)	69	(25.5%)	
質問の意味がわからない	17	(7.3%)	1	(2.6%)	18	(6.6%)	
事前_Q12.友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる							*
そう思う	63	(27.0%)	13	(34.2%)	76	(28.0%)	
どちらかと言えばそう思う	43	(18.5%)	15	(39.5%)	58	(21.4%)	
どちらかといえばそう思わない	16	(6.9%)	2	(5.3%)	18	(6.6%)	
そう思わない	26	(11.2%)	1	(2.6%)	27	(10.0%)	
わからない	72	(30.9%)	6	(15.8%)	78	(28.8%)	
質問の意味がわからない	13	(5.6%)	1	(2.6%)	14	(5.2%)	
事前_Q13.友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる							*
そう思う	68	(29.2%)	15	(39.5%)	83	(30.6%)	
どちらかと言えばそう思う	39	(16.7%)	13	(34.2%)	52	(19.2%)	
どちらかといえばそう思わない	11	(4.7%)	0	(0.0%)	11	(4.1%)	
そう思わない	19	(8.2%)	1	(2.6%)	20	(7.4%)	
わからない	80	(34.3%)	8	(21.1%)	88	(32.5%)	
質問の意味がわからない	16	(6.9%)	1	(2.6%)	17	(6.3%)	
事前_Q14.「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ							n. s.
そう思う	33	(14.2%)	6	(15.8%)	39	(14.4%)	
どちらかと言えばそう思う	42	(18.0%)	10	(26.3%)	52	(19.2%)	
どちらかといえばそう思わない	48	(20.6%)	10	(26.3%)	58	(21.4%)	
そう思わない	51	(21.9%)	6	(15.8%)	57	(21.0%)	
わからない	55	(23.6%)	6	(15.8%)	61	(22.5%)	
質問の意味がわからない	4	(1.7%)	0	(0.0%)	4	(1.5%)	
事前_Q15.これまでにセクシュアル・マイノリティについて学校で習ったことがある							***
ある	28	(12.0%)	6	(15.8%)	34	(12.5%)	
ない	71	(30.5%)	20	(52.6%)	91	(33.6%)	
覚えていない	63	(27.0%)	11	(28.9%)	74	(27.3%)	
質問の意味がわからない	71	(30.5%)	1	(2.6%)	72	(26.6%)	
事前_Q16.これまでにセクシュアル・マイノリティについて自己学習したことがある							***
ある	14	(6.0%)	3	(7.9%)	17	(6.3%)	
ない	116	(49.8%)	29	(76.3%)	145	(53.5%)	
覚えていない	36	(15.5%)	5	(13.2%)	41	(15.1%)	
質問の意味がわからない	67	(28.8%)	1	(2.6%)	68	(25.1%)	

***= $p < .001$, **= $p < .01$, *= $p < .05$

表4. 取材の有無クロス集計、 χ^2 検定(授業後)

	取材の有無(高校のみ)						p-value
	テレビ無 n=233		テレビ有 n=38		合計 n=271		
	n	%	n	%	n	%	
事後_Q1.性別は「男」か「女」の2つしかない							n. s.
そう思う	57	(24.5%)	7	(18.4%)	64	(23.6%)	
どちらかと言えばそう思う	20	(8.6%)	0	(0.0%)	20	(7.4%)	
どちらかといえばそう思わない	25	(10.7%)	5	(13.2%)	30	(11.1%)	
そう思わない	114	(48.9%)	25	(65.8%)	139	(51.3%)	
わからない	14	(6.0%)	0	(0.0%)	14	(5.2%)	
質問の意味がわからない	3	(1.3%)	1	(2.6%)	4	(1.5%)	
事後_Q2.男装は気持ち悪い							n. s.
そう思う	14	(6.0%)	1	(2.6%)	15	(5.5%)	
どちらかと言えばそう思う	23	(9.9%)	0	(0.0%)	23	(8.5%)	
どちらかといえばそう思わない	52	(22.3%)	14	(36.8%)	66	(24.4%)	
そう思わない	118	(50.6%)	20	(52.6%)	138	(50.9%)	
わからない	24	(10.3%)	2	(5.3%)	26	(9.6%)	
質問の意味がわからない	2	(0.9%)	1	(2.6%)	3	(1.1%)	
事後_Q3.女装は気持ち悪い							n. s.
そう思う	18	(7.7%)	1	(2.6%)	19	(7.0%)	
どちらかと言えばそう思う	41	(17.6%)	3	(7.9%)	44	(16.2%)	
どちらかといえばそう思わない	47	(20.2%)	12	(31.6%)	59	(21.7%)	
そう思わない	99	(42.5%)	18	(47.4%)	117	(43.2%)	
わからない	26	(11.2%)	3	(7.9%)	29	(10.7%)	
質問の意味がわからない	2	(0.9%)	1	(2.6%)	3	(1.1%)	
事後_Q4.異性を好きになることが当然だ							*
そう思う	40	(17.2%)	2	(5.3%)	42	(15.5%)	
どちらかと言えばそう思う	52	(22.3%)	6	(15.8%)	58	(21.4%)	
どちらかといえばそう思わない	29	(12.4%)	9	(23.7%)	38	(14.0%)	
そう思わない	88	(37.8%)	19	(50.0%)	107	(39.5%)	
わからない	23	(9.9%)	1	(2.6%)	24	(8.9%)	
質問の意味がわからない	1	(0.4%)	1	(2.6%)	2	(0.7%)	
事後_Q5.同性婚(同性同士の結婚)ができてもいい							*
そう思う	95	(40.8%)	24	(63.2%)	119	(43.9%)	
どちらかと言えばそう思う	53	(22.7%)	8	(21.1%)	61	(22.5%)	
どちらかといえばそう思わない	24	(10.3%)	1	(2.6%)	25	(9.2%)	
そう思わない	19	(8.2%)	2	(5.3%)	21	(7.7%)	
わからない	41	(17.6%)	2	(5.3%)	43	(15.9%)	
質問の意味がわからない	1	(0.4%)	1	(2.6%)	2	(0.7%)	
事後_Q6.性別を変えたいと思うことはおかしい							n. s.
そう思う	10	(4.3%)	1	(2.6%)	11	(4.1%)	
どちらかと言えばそう思う	17	(7.3%)	0	(0.0%)	17	(6.3%)	
どちらかといえばそう思わない	53	(22.7%)	9	(23.7%)	62	(22.9%)	
そう思わない	127	(54.5%)	26	(68.4%)	153	(56.5%)	
わからない	25	(10.7%)	1	(2.6%)	26	(9.6%)	
質問の意味がわからない	1	(0.4%)	1	(2.6%)	2	(0.7%)	
事後_Q7.自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる							n. s.
そう思う	14	(6.0%)	1	(2.6%)	15	(5.5%)	
どちらかと言えばそう思う	43	(18.5%)	5	(13.2%)	48	(17.7%)	
どちらかといえばそう思わない	51	(21.9%)	5	(13.2%)	56	(20.7%)	
そう思わない	86	(36.9%)	21	(55.3%)	107	(39.5%)	
わからない	37	(15.9%)	5	(13.2%)	42	(15.5%)	
質問の意味がわからない	2	(0.9%)	1	(2.6%)	3	(1.1%)	
事後_Q8.自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる							n. s.
そう思う	14	(6.0%)	1	(2.6%)	15	(5.5%)	
どちらかと言えばそう思う	30	(12.9%)	5	(13.2%)	35	(12.9%)	
どちらかといえばそう思わない	50	(21.5%)	6	(15.8%)	56	(20.7%)	
そう思わない	94	(40.3%)	20	(52.6%)	114	(42.1%)	
わからない	41	(17.6%)	5	(13.2%)	46	(17.0%)	
質問の意味がわからない	4	(1.7%)	1	(2.6%)	5	(1.8%)	